

新たな広域道路交通計画について

重要物流道路を契機とした「新たな広域道路交通計画」の策定について

I 今後の道路計画の主な課題 (現計画※はH6策定、H10以降未改定) ※広域道路整備基本計画

■ 新たな社会・経済の要請に応えるとともに、総合交通体系の基盤としての道路の役割強化や、ICT・自動運転等の技術の進展を見据えた未来志向の計画が必要。

新たな国土構造の形成

- スーパーメガリージョンの実現
- 中枢・中核都市等を中心とする地域の自立圏の形成 等

グローバル化

- インバウンドへの対応
- 国際物流の増加への対応 等

国土強靱化

- 災害リスク増大への対応
- 代替機能の強化の必要性 等

各交通機関との連携強化

ICT活用・自動運転社会への対応

II 新たな広域道路交通計画の策定

■ 各地域において中長期的な観点からビジョン、計画を策定 (定期的に見直し)

「平常時・災害時」を問わない「物流・人流」の確保・活性化

(1)
**広域道路ネットワーク
計画**



(2)
**交通・防災拠点
計画**



(3)
**ICT交通マネジメント
計画**

重要物流道路の指定・地域高規格道路等の広域道路ネットワークの再編 等

1. 地域の将来像

- 地域の社会・経済の現状や見通しを踏まえた目指すべき姿について整理
(既存の地域における総合的なビジョン等をベースに検討)

2. 広域的な交通の課題と取組

- 地域における鉄道、海上、航空を含めた広域的な交通の課題や取組について、平常時・災害時及び物流・人流の観点から総合的に整理
- ICTや自動運転等の技術革新を踏まえた新たな取組についても整理

3. 広域的な道路交通の基本方針

- 地域における広域的な道路交通に関する今後の方向性について、平常時・災害時及び物流・人流の観点から、ネットワーク・拠点・マネジメントの3つの基本方針を整理

(1) 広域道路ネットワーク

高規格幹線道路を補完する広域道路ネットワークを中心に、

- 地域や拠点間連絡の方向性
(必要な計画路線、路線再編含む)
- 災害時のネットワークの代替機能強化の方向性 等

(2) 交通・防災拠点

- 地域の主要な交通拠点に関する、道路と各交通機関の連携強化の方向性
- 災害時の物資輸送や避難等の主要な防災拠点の機能強化等の方向性 等

(3) ICT交通マネジメント

- ICT等を活用した道路の情報収集や活用の方向性
- 他の交通とのデータ連携などサービス向上の方向性
- 主要都市部等における面的なマネジメントの方向性 等

基本的な考え方

- 地域ビジョンに基づき、高規格幹線道路や、これを補完する広域的な道路ネットワーク(地域高規格、直轄国道等)を中心とした必要な路線の強化や絞り込み等を行いながら、平常時・災害時及び物流・人流の観点を踏まえた具体のネットワーク計画を策定。

<平常時>

- ① **都市間ネットワーク(物流・人流共通)**
 - ・ 広域的な主要都市間、及び主要都市と地域の中心都市との間の連携・交流機能の強化
- ② **物流ネットワーク**
 - ・ 主要な物流拠点(空港、港湾、鉄道貨物駅等)と高規格幹線道路等のアクセス強化
 - ・ 都市圏における生産性向上のための環状機能の確保
 - ・ 国際物流を支えるためのラストマイルも含めた国際海上コンテナ車等の円滑な通行の確保
- ③ **観光・交流(人流)ネットワーク**
 - ・ 主要観光地等と高規格幹線道路、主要空港・鉄道駅、国際クルーズ港湾等のアクセス強化
- ④ **その他**
 - ・ 地域の課題(渋滞、事故等)の解消 等

<災害時>

- ① **広域的なネットワークの多重性・代替性**
 - ・ ネットワークの防災機能評価を踏まえた、主要都市や中心都市間等の多重性の強化
 - ・ 高規格幹線道路と並行する直轄国道など、基幹道路同士の代替機能の強化
 - ・ 基幹道路に対する地方管理道路による広域的な代替路の確保(基幹道路同士が近接しない場合)
- ② **局所的なネットワークの代替性**
 - ・ 基幹道路の局所的な脆弱箇所(事前通行規制区間等)に対する代替路の確保
 - ・ 基幹道路から防災拠点(自衛隊基地、病院等)への補完路の確保
- ③ **その他**
 - ・ 地域の防災を強化する上で必要な路線の代替・補完路の確保

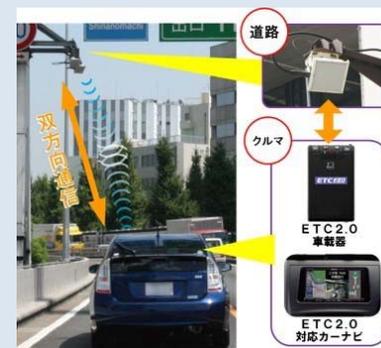
<交通・防災拠点計画>

- 地域における中心的な役割を担う主要鉄道駅等の交通拠点について、利用者の利便性の向上や周辺道路の交通課題の解消を図るため、立体道路制度の活用による空間再編や総合交通ターミナルの整備等も含め、官民連携によるモーダルコネクト(多様な交通モード間の接続)の強化策に関わる計画を策定。
- 災害時の物資輸送や避難等の主要な拠点となる道の駅や都市部の交通拠点等について、災害情報の集約・発信、防災施設の整備など、ソフト・ハードを含めた防災機能の強化策に関わる計画を策定。



<ICT交通マネジメント計画>

- ICT等(ETC2.0含む)の革新的な技術を積極的に活用した交通マネジメントの強化に関わる計画を策定。
 - 広域的な道路ネットワークを中心とした、平常時や災害時を含めたデータ収集や利活用の強化
 - 他の交通機関とのデータ連携によるモビリティサービスの強化
 - 主要な都市部等における面的な交通マネジメントの強化
 - ICT等の活用に向けた産学官連携による推進体制の強化 等
- 今後の自動運転社会を見据えた、地域における新たな道路施策を検討するための推進体制や実験計画等について整理。



関東ブロックの新たな広域道路交通ビジョン・計画 策定スケジュール(案)

<H30. 7. 19>

関東地方道路協議会 [ビジョン策定依頼、地域の将来像]

<H30. 12. 26>

関東地方道路協議会 [ビジョン(案)中間とりまとめ]

有識者ヒアリング

新広域道路交通ビジョン(関東ブロック版) 中間とりまとめ策定

<R3. 6月まで>

各県 道路協議会 → 各県版 ビジョン、計画の策定

茨城 (R3. 6/10策定) 栃木 (R3. 6/30策定) 群馬 (R3. 3/26策定) 埼玉 (R3. 6/30策定) 千葉 (R3. 6/25策定)

東京 (R3. 6/18策定) 神奈川 (R3. 6/25策定) 山梨 (R3. 3/31策定) 長野 (R3. 3/31策定)

パブリックコメント

関東地方小委員会

有識者ヒアリング

関東地方道路協議会 [ブロック版 ビジョン(案)、計画(案)]

新広域道路交通ビジョン・計画 関東ブロック版 策定

関東地方小委員会の概要と意見

□開催日時

令和3年7月12日（月）10:00～

□場所

WEB会議

□委員名簿

氏名	所属・役職	出席
秋葉 正一 (あきば しょういち)	日本大学生産工学部土木工学科教授	
大下 茂 (おおしも しげる)	帝京大学経済学部観光経営学科教授	○
鬼沢 良子 (きざわ りょうこ)	NPO法人 「持続可能な社会をつくる元気ネット」理事長	○
【委員長代理】 久保田 尚 (くぼた ひさし)	埼玉大学大学院理工学研究科教授	○
佐々木 淳 (ささき じゅん)	東京大学大学院新領域創成科学研究科教授	○
谷口 綾子 (たにぐち あやこ)	筑波大学システム情報系教授	○
藤山 知加子 (ふじやま ちかこ)	横浜国立大学大学院 都市イノベーション研究院准教授	
二村 真理子 (ふたむら まりこ)	東京女子大学現代教養学部国際社会学科教授	
水野 創 (みずの はじめ)	千葉県経済同友会副代表幹事	○
【委員長】 屋井 鉄雄 (やい てつお)	東京工業大学副学長	○

□議事概要（各委員からの意見）

- 直近の国勢調査結果からも一極集中が顕著に進んでおり、そのリスク軽減の観点からも、今回の道路計画に関する取組みを進めることが望ましい。
- 都心部の渋滞緩和を主な目的として3環状9放射の整備が進んできたが、都市間連絡の強化は依然として課題
- 災害対応の観点より、バスターミナル等の交通拠点や道の駅について、防災機能の強化に関する取組みが、今後一層求められる
- 今後の観光需要等の観点より、高速バスネットワークの充実や地方都市のバスターミナルの拠点化が必要
- 前回の計画策定後から道路整備が大きく進展し地域づくりに寄与している。今回の道路計画をもとに、地域の声もふまえ、今後も必要な取組みを進めることに期待している
- 今回策定する広域道路計画について、地域住民に広く認知してもらうことが重要ではないか。
- 今後、各路線の具体の計画づくりにあたっては、計画段階評価を含む構想段階において、よりオープンな形で概略計画策定を進める必要がある
- 激甚化する自然災害への対応や、急速に進展するICTや自動運転技術等をふまえ、計画策定期間（20～30年）にとらわれず、柔軟な計画の見直しが必要
- 一般広域道路を含め、物流のサービス水準を確保するためのメンテナンスや、歩道橋や跨道橋も含めた老朽化や耐震対策の推進が必要

有識者ヒアリングの概要と意見

□開催日時

令和3年7月13日（火）15:30～

□場所

WEB会議

□委員名簿

氏名	所属・役職	出席
井門 隆夫 (いかど たかお)	高崎経済大学地域政策学部 観光政策学科教授	○
柄澤 洋子 (からさわ ようこ)	一般社団法人長野県商工会議所連合会 事務局長	
黒川 文子 (くろかわ ふみこ)	獨協大学経済学部経営学科教授	○
篠原 靖 (しのはら やすし)	跡見学園女子大学観光コミュニティ学部 観光デザイン学科准教授	○
秦 康範 (はだ やすのり)	山梨大学大学院総合研究部 (工学域・土木環境工学系) 准教授	○
兵藤 哲朗 (ひょうどう てつろう)	東京海洋大学流通情報工学科教授	○
平澤 哲哉 (ひらさわ てつや) 【代理】清水 竜 (しみず りょう)	東京商工会議所地域振興部長 (東京商工会議所 地域振興副部長)	○
福田 大輔 (ふくだ だいすけ)	東京大学大学院工学系研究科 社会基盤学専攻教授	○
水上 裕之 (みなかみ ひろゆき)	神奈川港運協会横浜港運協会常務理事	○
柳沼 秀樹 (やぎぬま ひでき)	東京理科大学理工学部土木工学科准教授	○

□議事概要（各委員からの意見）

- CO2削減目標が示され電動車等の普及も進む中、充電施設の設置等の道路に関するカーボンニュートラルの取組みを進めていくことが望ましい
- 将来の技術革新等をふまえ自動運転走行レーン等の配置等に関するネットワーク計画の充実が必要。また関東ブロックとして広域的な観点からのネットワーク計画や拠点の配置計画についても検討を深めていくことが必要
- 今回示すネットワーク整備による整備効果等の定量的な分析について検討することが望ましい
- インバウンドの観点から外国人観光客の高速バス利用が増加する見込みがあり、地方のバスターミナル等の交通拠点の機能強化が必要
- コンテナ物流に関して、ラストワンマイルまで含めたネットワーク強化やコンテナの大型化に対応した物流拠点等の配置が必要
- 道路のネットワークとしての機能に加え、例えば高架道路を避難場所に活用するなど、空間としても平常時・災害時それぞれに必要な機能を担うことが求められる
- ネットワーク、拠点、ICTによるマネジメントを効果的に機能させるために、一体的な計画として総合的に検討することが望ましい。特にICTの分野は今後の技術革新等に応じ、柔軟な計画変更が必要
- 今回策定する道路計画が将来実現した際の経済効果が見える化し、広く地域に周知することが望ましいのではないか
- 物流や観光利用において車移動がメインとなる地方部について、地域の活性化のため、着実な道路整備を進めてほしい

「新たな広域道路交通ビジョン・計画（関東ブロック版）」に対する 主な意見（パブリックコメントからの意見）及びそれに対する考え方

※パブリックコメント意見提出総数 21 件（20 者） 令和 3 年 6 月 30 日～令和 3 年 7 月 13 日

該当箇所	「新たな広域道路交通ビジョン・計画（関東ブロック版）」に対する主な意見	意見に対する考え方
新広域道路交通計画 1. 広域道路ネットワーク	○長野県の構想路線（松本佐久連絡道路、上田諏訪連絡道路）に対する意見 （4 件）	○ご意見頂きました路線は、「関東ブロック 新広域道路交通計画」の 26 ページの長野県拡大図に構想路線として図示しております。 ○計画の実施にあたりましては、適切に対応してまいります。
	○千葉県の調査中路線及び構想路線（千葉北西連絡道路、千葉北西連絡道路延伸）に対する意見 （16 件）	○ご意見頂きました路線は、「関東ブロック 新広域道路交通計画」の 18 ページの千葉県拡大図に構想路線及び調査中路線として図示しております。 ○計画の実施にあたりましては、適切に対応してまいります。
	○茨城県及び栃木県の構想路線（(仮)つくば・八溝縦貫・白河道路）に対する意見 （1 件）	○ご意見頂きました路線は、「関東ブロック 新広域道路交通計画」の 10 ページの茨城県拡大図及び 12 ページの栃木県拡大図に構想路線として標記しております。 ○計画の実施にあたりましては、適切に対応してまいります。